

1. 単元名 くらべて説明！！ ～ちがいのしめし方の工夫～

2. 研究主題

未来をそうぞうする子どもを育むための「学びの言語の習得と活用」

～言葉における認識の機能とイメージとの関連性について～

(1) 単元について

本単元では、「説明する」、および「解説する」という「学びの言語」を意識し、二つの対象をある観点から捉えた時の違いを取り上げることで、二つの対象がどのようなものなのかをより明らかにして自分たちで意味付け、相手に伝える説明的文章を書いてみることに挑戦する。

子どもたちは、これまでに説明的文章を読み進め、表現することを経験していく中で、「説明する」とときにはだれにでも伝わりやすく書くことが肝心であり(再現可能)、対象が物の場合は、「つくり」、「はたらき」が、対象が過程(～の仕方)の場合は、順序を示していく表現の工夫(「まず」、「次に」など)が備わっていることが重要であることを学んできている。また、「案内係になろう」(東書4年)を通して、体験的に、子どもたち同士で「行き方」の説明をすることで、相手を意識し、「相手に的確に伝えるためにはどんなことを取り上げる必要があるのか」を伝えたいことによって考えていくことが必要であることに気付くことができた。

本単元では、二つのものをくらべながら自分の考えを伝える説明的文章を書く言語活動を行う。国語科教科論で示したように、「解説する」ことで、二つの対象を比べたり、関連付けたりしながら説明することを目指す。「くらしの中の和と洋」(東京書籍 4年生下)を「和室」と「洋室」について整理して読み取ることで、二つの対象を「解説する」説明的文章に触れることができた。そこで、子どもたちの日常生活とかかわり、課題意識を持って取り組めるように、本校の保健室が部分的に和室のつくりであることを取り上げ、保健室は和室的な部屋がいいのか洋室的な部屋がいいのかを子どもたちに問いかけた。また、伝える相手を校長先生と副校長先生にし、目的を学校をリフォームする機会に参考にしてもらおうと想定した。基本的な部屋のはたらきと部屋のつくり、そこから子どもたちなりに意味を出し合い、和室的な部屋がいいのか洋室的な部屋がいいのかの説明的文章を作成した。しかし、ここで表した説明的文章は、意味付けに置いてはあくまで表面的な、子ども達のだれにでも想像しうるものを書き上げることに留まった。そこで、校長先生に一度見てもらい、「校長先生でさえ思ってもみなかったヒミツを見つけて解説をしてほしい。」とコメントをもらった。「解説する」における相手意識に重要なのは、既有知識を超えた意味付けを見出し、相手の好奇心を見積もりながら表現することにあることにある。再現性だけでない「解説する」ことが含む新たな相手意識を子どもたちに意識させることで、「説明する」から、より「解説する」を意識した説明的文章の作成を目指す。

本時で、他のグループと読み合い、グループによってどんな意味付けが新たにされているのか、どのグループの意味付けが既有知識を超えて相手をひきつけるものであるのか(相手意識)について、交流することで「とらえなおし」(再認識)を行う。本単元の言語活動の経験が、新たな「学びの言語」としての「解説する」の習得の端緒となり、今後も折々に経験していくことで、国語科として言語の側面から認識と表現を鍛えていきたい。

(2) 単元における国語科の目標

○これまでに学んだ「学びの言語」を活かして、よりよい説明的文章となるように、対象を捉え意味を見出すことに興味をもつことができる。【学びに向かう力】

○これまでに学んだ「学びの言語」を活かして、物のつくりやはたらき、「～の仕方」、「意味付け」について書き、

他のグループの文章を読み取ることができる。【知識・技能】

○書こうとしたことが、明確になっているか、相手が興味を持てるかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、互いの文章がより相手に伝わりやすく、知りたくなるように考えることができる。【思・判・表】

(3) 未来そうぞう科とのつながりと本時における国語科がになう3つの実践力

国語科で「学びの言語」の習得と活用をクラスの友だちと交流し、校長先生など伝える相手とかかわることを通して、主体的な表現者を育成することは、未来そうぞう科の学びのプロセスである「想像と創造」の往還や、資質・能力のうちの協働的实践力と密接に通底し、これらを向上する一助になりうると考える。

一度、書き上げたものを校長先生に見てもらい、より「解説する」説明的文章に書き直そうとする「とらえなおし」(再認識)と「ねりなおし」(再構成)の過程は、主体的な表現者として学びを深めていくことであり、その学びの様子は「想像と創造」の往還の学習プロセスと重なっている。また、校長先生に相手意識を持つこと、自分だけではなくグループで相談しながら書き進めることには、他者とかかわる協働的实践力が多分に発揮されていることを期待する。その上で、国語科がになう3つの実践力は下の通りであると考ええる。

○主体的実践力 これまでに学んだ「学びの言語」を活かして、自ら積極的に対象を捉え、意味付けしようとする姿。

○協働的实践力 グループで相談し、全体で交流する中で、他者の意見を取り入れながら、また、伝える相手の反応を考えながら、より自覚的に「学びの言語」を習得しようとする姿。

○創造的实践力 言葉によって、ある目的のために、相手を意識して、対象を認識し、意味づけることが、国語科での学習の場以外においても、有意義であることを見出す姿。

(4) 活動構成の仮説

仮説①「学びの言語」の系統性の検証

第四学年として、対象に意味付けを行う「解説する」を習得していく授業実践の可能性

国語科では、低学年で、物を対象とした「説明する」と過程を対象とした「説明する」経験をめぐり、さらに第三学年において、これらを組み合わせた「説明する」を習得することを目指している。後続の第四学年では「説明する」の習得の方向性はどうか方向性を探ってきた。

これまでに、対象が目の前にない過程である「行き方」を「説明する」ことで、相手が見つけやすい目印となる物の説明をどう工夫するのか、行き方として順序が伝わりやすいようにどのように一文ずつ表現していくのか、また、物や過程の説明以外にも、誰にでも伝わりやすい再現性のある「距離の表し方」はどうすべきかなど、相手の立場に立ってどのような要素が必要なのかを吟味していくことが大切であることを学んだ。

一方で、二つ以上のものを図鑑的に提示するだけではなく、互いに関わらせながら説明する説明的文章も教科書で学んできた。そこで、子どもたちの「学びの言語」のハードルとして、対象が一つではなく、二つ以上のものとなったときの「説明する」の在り方について子どもたちと学んでいく必要があると考えた。また、「解説する」における意味付けにも着目し、子どもたち自身で対象に意味を見出すことを習得していくことについても検証を行うべきだと考えた。

本単元では、子どもたち自身でも表せるような、身近な学校にある対象を「解説する」を実践することで、今後、複数の対象を扱い意味づけされた説明的文章を読むことや自分で説明する状況に対峙したときに、主体的な表現者としての向き合い方を支えることができるのではないかと

3. 単元計画 全時間（7時間目／8時間）

学習活動の流れと子どもたちの意識の流れ	指導上の留意点	評価
<p>課題をもち、学習の流れをつかむ。</p> <p>「くらしの中の和と洋」ではどのような「説明」がされていたか復習し、「保健室をリフォームするときに校長先生に参考にしてもらおう」説明（解説）文を書く課題を見出す。1時間</p> <p>和室と洋室について二つのことが分けておぼえていたなあ。</p> <p>二つのことを「説明するとき」にはどういうことをくらべて、ちがいをみつけるのが大事なかなあ。</p> <p>つくりとはたらきがちがうから、「すこし方」や「使い方」もちがったなあ。</p> <p>わたしたちも、ふたつのことをくらべて書くことができるかな。</p>	<p>○「くらしの中の和と洋」で、和室と洋室が「つくり」や「はたらき」（すこし方や使い方）から比べて、違いが説明されていたことを復習する。</p> <p>○子どもたちに比べて説明するといふ説明的表現活動への興味・関心をもたせられるように課題を共有し、学習の流れを伝える。</p> <p>○今後の学習の中で、保健室とはどのようなところか（大きなはたらき）をとらえるために、話題を出し合い、をある程度共有しておく。</p>	<p>□…評価の方法 ○…満足できる姿 ▲…支援を要する姿 ◇…支援の方法</p> <p>学びに向かう力</p> <p>□授業中のノートの記述や発言を評価する。</p> <p>○今後の学習の見通しや学びたいこと、意欲が表れている。</p>
<p>課題を意識しながら、認識し言語化していく。</p> <p>保健室のつくりの違いを対比。現状の和室的なつくりや、洋室的なつくりについて認識し言語化する。2時間</p> <p>平小の保健室は、寝るところがたみでふとんをしいて使っているなあ。他に何を整理したらいいかな。</p> <p>写真もそうだし、幼稚園のときの保健室は、床が木の板で、ベットを置いていたなあ。</p> <p>くらべるポイントを見つけて違いを対比。つくりによって、はたらきや、他のことで違いがないか認識し、意味付けする。1時間</p> <p>つくりから考えたら、寝るときには隣の人の近さってくらべられるかな。</p> <p>広さは、寝心地のよさに関係するかな。だったら、ふとんとベッドのどっちのほうがいいかな。</p>	<p>○グループごとに、「つくり」について気付いたことを出し合い、整理して、クラスで共有する。</p> <p>○整理した「つくり」から、くらべるポイントやそこからできること（はたらき）のちがいを見付けていくように促し、悩んでいるグループがあれば、考えるヒントを伝えて支援する。</p> <p>○上手く進められているグループの良さや努力を認め、コツを全体共有することで、グループの中で意見を出し合いながら、考えていく雰囲気を高めていくようにする。</p>	<p>学びに向かう力</p> <p>□授業中のノートの記述や発言を評価する。</p> <p>○これまでに学んだ「学びの言語」を活かして、よりよい説明的文章となるように、対象を捉え意味を見出すことに興味をもつことができる。</p> <p>知識</p> <p>□授業中のノートの記述や発言を評価する。</p> <p>○これまでに学んだ「学びの言語」を活かして、物のつくりやはたらき、「への仕方」、「意味付け」について書き、他のグループの文章を読み取ることができる。</p>
<p>「とらえなおし」で「ねりなおし」をする。</p> <p>校長先生からコメントをもらうことで「ヒミツの解説文」を書くことに挑戦する。2時間</p> <p>わたしたちの考えていた意味って、たしかに当たり前だったかも。</p> <p>他の人が思いつかないような意味を見つけないためには、○○を調べてみたいなあ。</p> <p>グループによってどんな意味付けが新たにされているのか、興味が持てるものかを全体交流する。1時間（本時）</p> <p>他の人が思いつかないような意味を見つけないのもずかしいなあ。</p> <p>みんなが一生懸命考えたのはわかるけど、たくさん意味をみつけていくのが難しいのかも。</p> <p>ねらった通りにみんながおどろいてくれてよかったなあ。くらべるときの書き方がうまくいったかな。</p> <p>今まで読んできた説明的文章の筆者は、意味を見つけることにとても努力してきたのかな。</p>	<p>○新たな意味を見出すために、調べたい事や保健の先生に聞いてみたいこと（保健の先生の意見以外）がある場合には調べたり、聞いていたりしていいことを伝える。</p> <p>○グループによってどんな意味付けが新たにされているのか、相手にとって興味がもてるようになっているのか、他のグループの説明文の良さや改善点を見付けて意見を交流するように促す。</p> <p>○子どもたちの発言をもとに、どんなことに気を付けて書くことよいのを整理して、子どもたちが見返すことができるように板書する。</p>	<p>思・考・表</p> <p>□授業中のノートの記述や発言を評価する。</p> <p>○書こうとしたことが、明確になっているか、相手が興味を持てるかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、互いの文章がより相手に伝わりやすく、知りたくなるように考えることができる。</p>
<p>これまでの学習をふりかえる。</p> <p>校長先生からコメントをもらい、学習をふりかえる。1時間</p> <p>コメントをもらってよかったなあ。どこまで参考にしてもらえたかわかった。</p> <p>今回みたいにくれればよかったなあ。自分の伝えたいことがこれからもっと伝わりやすくなるかも。</p>	<p>○校長先生と打ち合わせをし、コメントを動画で撮っておき、ipadで確認できるようにしておく。</p> <p>○ふりかえりを全体交流し、今後どんなことに活かそうかということについてのふりかえりを積極的に取り上げるようにする。</p>	<p>学びに向かう力</p> <p>□授業中のノートやカードへの記述や発言を評価する。</p> <p>○今後の説明的表現の活動に意欲的な振り返りを書いたり発言したりしている。</p>